

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

394号

2024年新年号

자주

発行 在日韓国民主統一連合  
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

過去は変えられないけれど、未来は変えることができる

韓統連大阪本部代表委員 金隆司(ギム・ヨンサ)

謹賀新年

旧年中のご支援に感謝し、  
新年のご挨拶を申し上げます。

●「見利忘義」  
(利を見て義を忘れる)

昨年(ことし)の日本の世相を表す

漢字は「税」でした。物価が上昇しても賃金が上  
がらず、「税」がより重くのしかかった年でした。  
しかも5年間で43兆円という莫大な防衛費のため  
に、これから増税するといふのですからひどい  
話です。「国を守る」といふのは国民の生活を守  
る事であり、国民の生活を犠牲にして「国を守る  
」といふのは本末転倒です。

ちなみに韓国では1年の世相を4文字熟語で表  
しますが、昨年は「見利忘義(利を見て義を忘れ  
る)」でした。大統領とその周辺の親戚、政治家  
たちが、特権を利用して私利私欲を追求している  
現状を嘆いたものです。

軍事独裁時代は軍人が令状なしに多くの人を連  
行し、拷問で事件をデッチ上げて逮捕、投獄して  
いました。今は検察が「合法的」に令状を持って  
家宅捜査や検察への召喚を繰り返して脅迫するとい  
う検察独裁の時代です。韓国の民主主義の未熟  
さが生み出した結果ですが、第2のキャンドル革  
命で検察独裁政権を清算し、民主化と統一がより  
発展するものと確信しています。

### ●映画「ソウルの春」

昨年11月に公開された映画「ソウルの春」が、  
1ヶ月で観客数が900万人を突破するといふ大  
ヒットになっています。1979年12月12日に  
起こった全斗煥の軍事反乱(「肅軍」クーデター)  
をテーマにした映画ですが、右翼団体が「学生  
を扇動して歪曲した歴史認識を植え付けている」  
として、団体鑑賞した中学校に抗議デモをしたり  
、校長を「職権乱用」で告訴したりするなど社会  
問題にもなっています。

全斗煥は「失敗すれば反乱だが、成功すれば革

命だ」としクー  
デターを  
「成功」させ  
ましたが、当  
時、彼らは  
「新軍部」と  
呼ばれました。

今の尹錫悦政

権の中核を担う検察出身閣僚たちは「新検部」と  
呼ばれています。尹錫悦大統領と「新検部」がこ  
れからどのような末路を歩むのか。それはすべて  
私たちの手にかかっています。

尹錫悦政権の支持率は就任1ヶ月で50%台から  
40%台に落ち、昨年の12月では31%でした。  
昨年11月には「尹錫悦弾劾汎国民運動本部」が  
発足しました。国民を裏切った大統領は任期途中  
でも辞めさせるべきだといふ判断です。尹錫悦大  
統領が第2の朴槿恵になるかどうかは、今年4月  
の総選挙に大きくかかっています。野党が200議  
席を獲得すれば弾劾は可能ですし、与党が敗北す  
れば、3年後の大統領選挙にむけて早くも尹錫悦  
大統領のレームダックが始まるともいわれています  
。熾烈な選挙戦がすでに繰り広げられおり、在日  
同胞の1票で尹錫悦政権を退陣に追い込みたいと思  
っています。

### ●未来は変えられる

尹錫悦大統領は、一昨年3月の大統領選挙でわ  
ずか25万票(0.7%)の僅差で勝利しました。安哲  
秀候補の直前の立候補辞退など色々あった選挙  
で、過去を悔やんでも仕方がありませんが、過去  
の教訓を生かすことは大切です。過去は変えられ  
ないけれど、未来は変えることができます。私は  
韓日民衆の連帯の力で未来を変えたいと思ってい  
ます。私たちは必ず勝利する。勝利の確信をもっ  
て今年も自主・民主・統一運動に邁進していき  
たいと思っています。皆様に幸多い年になること  
を祈願し、新年の挨拶としたいと思います。



新年明けましておめでとうございます。

「自主(チャジュ)」2024年新年号では、日頃から韓統連大阪本部と連帯関係にある各界の方々から、新年辞を送って頂きましたので、紹介させていただきます。

## 2024年新年辞

在日韓国良心囚同友会代表 李哲(イ・ Chol)

新春を迎えて自主読者の皆様に新年のご挨拶を申し上げます。

昨年来、日本と韓国の政権に猛烈な嵐が吹き荒れています。毎日新聞によると岸田政権の支持率は16%まで下落し、また岸田総理を誰よりも慕っている尹錫悦大統領も昨年1年間で13回、570億ウォンもの浪費外遊や不正、無能ぶり、夫人と母親の株価つり上げや、ブランド品の収賄疑惑も明らかになり、国民の怒りは沸点に達しています。韓国国民は今年の4月に実施される総選挙で尹錫悦政権の「検察独裁」に苛烈な審判を下すことになるでしょう。私たちは朴槿恵政権の再演を見るやもしれません。

韓国には李承晩や朴正熙、全斗煥の厳しい独裁時代に多くの公安事件の弁護を引き受けられ、また70～80年代に18名もの在日韓国人政治犯事件の弁護も勇気を持って受任して下さった太倫基(テ・ユンギ)という立派な弁護士がおられました。太倫基はそのために1983年に政府の懲戒処分を受け、弁護士資格が剥奪されたのですが、昨年在日弁護士資格剥奪から40年、亡くなられてから10年となる節目の年でした。在日韓国良心囚同友会は「11・22事件」48周年の行事として、太倫基弁護士の名誉回復を求めて「民主社会のための弁護士の集い(民弁)」の会長である曹永鮮(チョ・ヨンソン)弁護士と太倫基のお孫さんをお招きして講演会を開催して多くの方々に知らせ、太倫基の著書も翻訳出版しました。同友会は今年も引き続き太倫基の名誉回復を求めていくつもりです。

今年も同友会にとって忙しい1年となりそうですが、私たちは皆様とともに今年も一步一步進んでいく所存です。本年が韓国の「検察独裁」にピリオドを打ち、民主主義発展の画期的な年となり、また日本の民衆と自主の読者の皆様にとっても実



りある素晴らしい年となりますよう祈願致します。

## 希望はつかみとるものだ！

日朝国交正常化の早期実現を求める  
市民連帯・大阪共同代表 長崎由美子

朝鮮半島の平和的統一に向けて大きく動き出した2018年の南北首脳会談から5年後、尹錫悦大統領により朝鮮学校の訪問が禁じられ、交流が罪に問われる冬の時代となってしまった。



日本の岸田政権は軍事費を5年で43兆円も増やし、アメリカと一体化して平和憲法を捨て去ろうとしている。物価高騰に対して賃金は上がりず生活は困窮するのに社会保障費は削減される。人々の不安や不満は在日外国人への差別や排外を生み出し、差別を後押しする入管法改悪も可決されてしまった。

朝鮮・中国への敵視と偏見が溢れる報道が軍事費の増大を支持させている。こんな時だからこそ日朝市民連帯・大阪として取り組んだのが「文化で平和を創ろう！」金剛山歌劇団公演だった。日本の市民団体・個人・労組団体などに呼びかけ実行委員会を作り、多くの日本人が参加し、公演を成功させることができた。芸術文化は国境を越えることをあらためて実感した。

韓国の金福童(キム・ボトン) ハルモニは、ご自分の従軍慰安婦とされた辛い経験から、朝鮮学校の子どもたちへの差別に怒り大きな支援をしてくださった。

朝鮮学校裁判で敗訴に悔しい思いをした日も韓国からかけつけ、壇上で「希望はつかみとるもの！ファイティーン！」と病を押して激励された。あのハルモニの姿を思うと今も胸が熱くなる。

冬の時代、嵐の時代だからこそ我々は手をつなぎ、閉ざされた扉をたたき続けよう。

「希望はつかみ取るものだ」と語られた金福童ハルモニの言葉を胸に、平和と統一を目指して行動していきたい。





## あらゆる差別をなくし、 同志たちの連帯で東アジアの平和を おおさかユニオンネットワーク代表 西山直洋

新年あけましておめでとうございます。

世界ではロシア・ウクライナ戦争、パレスチナ・イスラエル戦争と戦争で権力を握もうとする大国が危険な道を作ろうとしています。しかし、世界各国の民衆はそのことを許さず、各地で反戦行動が激化してきており、同時に労働者のストライキも増えてきている状況です。

この原因を創り出している米国覇権体制を、今こそ終わらせていかなくてはなりません。

その道筋ができれば朝鮮半島の平和的統一も近づけることができると確信しています。

また、米国に追随する日本においても仮想敵国を創り出し、民衆を騙して防衛予算を増額し戦争への道を創り出そうとする岸田政権がいます。物価上昇により、その恩恵を受けているのは一部の者たちだけです。年末にかけ自民党安倍派の「キックバック」政治資金パーティー問題で、私腹を肥やす政治家たちがいることも暴露されました。そのような中、年を越しそうな状況ではありますが、私たちは今の政治にごまかされない思想を私たちは必要としています。大阪でも嘘とごまかしで政治を作る維新政治は、万博・カジノ問題で追い詰められようとしています。今まさに、韓国のキャンドル革命のような闘いが日本で、大阪で必要な時期にきています。労働者・民衆が連帯して民衆のための労働者のための世界を作り出していかなければ未来を勝ち取ることはできません。

そのためにはまず歴史の歪曲化を許さず、過去の植民地支配、慰安婦問題、徴用工問題等の反省と真の謝罪と補償を早急に日本政府に対し求めなくてはなりません。そして在日朝鮮人、韓国人に対する差別をなくし、朝鮮学校への補助金カット、朝鮮高校の無償化対象からの排除を直ちに撤回させ、朝鮮民主主義人民共和国への制裁をやめ、正しい姿勢なくして日朝国交正常化に向けた話し合いにもなりません。

一方的なレッテルと差別を一切認めず、東アジアの平和を求めることが、朝鮮半島の統一への道であり、私たちの運動によってしか作れないこと



を政治家たちに分からせていく活動が必要です。

今こそ日韓民衆の連帯で闘いを作り出し、日本国内においては課題がたくさんありますが、おおさかユニオンネットワークとして、本年も韓統連大阪本部の皆様が、朝鮮半島の自主的平和統一に向け奮闘されることを期待し、共に連帯していくことを誓い、新年の挨拶とさせていただきます。

## 世界の平和のために 日韓平和連帯事務局長 横山貴安基

新年、あけましておめでとうございます。

ロシアのウクライナ軍事侵攻から2年を迎えようとしています。世界経済は大きな打撃を受け、燃料をはじめあらゆる物の価格が上昇して人々の暮らしを圧迫しています。また昨年7月、イスラム組織ハマスによるイスラエルへの大規模攻撃、イスラエル軍はパレスチナ・ガザ地区への空爆を強め、ハマス側もイスラエルに対し多数のロケット弾を発射、双方の死者は増え続けています。宗教や人種問題によってこのような惨劇は、近隣諸国はもとより世界の危機と言っても過言ではありません。近年、世界を脅かし多くの被害をもたらした新型コロナウイルス感染症によって世界は混乱し、日本経済も大きな打撃を受けました。東アジアでは戦争行為は起きていないものの、日本はそういった危機意識を国民に植え付け、戦争のできる国づくりに邁進しています。政府は防衛力強化の方針を打ち出し、増税によって市民の生活はさらに疲弊し「弱者排除」の動きは留まることを知れませんが、唯一の被爆国である日本は世界の先頭に立ち、武力行使による戦争や核廃絶を訴えなければならない立場にあるはずです。ところが米国に依存するため、本来の役割を放棄し、東アジアの平和を混乱させる行動を随所に見せています。今こそ日本は東アジアの平和と協力体制を構築していかなければなりません。

朝鮮戦争停戦協定70周年を迎えた昨年は大きな節目の年となりました。今年はさらなる一歩として、朝鮮半島の平和統一の実現のために声を上げ続け、運動を強化していきましょう。

私たちは米国中心の世界から脱却し、東アジアの結束を強化することによって発信力を強め、世界の恒久平和を実現する役割があるのではないのでしょうか。2024年、大きな一歩となるよう日韓平和連帯は力になればと強く思います。



## 615(ユギロ)市民合唱団 送年音楽会に招待されました

森本忠紀

615市民合唱団は韓国の合唱団で、615は韓国語読みでは「ユギロ」と発音します。その615合唱団のファンクラブ日本支部ができました。と言ってもファンクラブ会員は私一人、昨年できたてホヤホヤのファンクラブです。

話は昨年9月の統一マダン生野にさかのぼります。韓国から615合唱団30人もの団員が大挙参加、出演してくださいました。その後の朝鮮学校グランドでの交流会で、私は615合唱団にカンパすることができました。コロナ前まで私は駐韓日本大使館前での日本軍「慰安婦」問題を解決せよとの集会(水曜デモ)によく参加しました。

私が行く度に必ず会いに来てくださった人が615合唱団運営委員長のリュウ・ギョンワンさんです。集会の後、リュウ・ギョンワンさんに昼食を御馳走になり、いろいろな場所に連れて行っていただき、たくさんの人に紹介していただきました。

「今度日本へ来てもらったんだから、韓国で大変お世話になったお礼をぜひともしなくては」と思いました。金昌五さんから、それならとアドバイスをいただいて合唱団にカンパしました。女性運営委員長のキム・ティムさんにカンパを受け取ってもらい、その模様がフェイスブックでも紹介されました。交流会のフィナーレは「ウリエソウォン」の歌を参加者みんなが大きな声で歌いながら手を繋ぎ大きな輪ができました。

統一を願う歌うたい手を繋ぎ

作る大きな輪傘寿の我も

今年数え年80歳なのでちょうど傘寿です。幼い頃に自身のこのような年寄り像は想像すらできなかったことです。運命とは不思議なものだと思います。また思いを共有する皆さんに感謝せずにはおれません。

その後、2ヶ月くらいして届いた知らせは嬉し

い驚きでした。それは「12月9日に送年音楽会が615合唱団によって催され、そこへいらっしゃいませんか？飛行機代は心配いりません」というものでした。わが人生を振り返って他にないようなビッグプレゼントです。喜び勇んで出かけました。

さて、送年音楽会は第1部が合唱団のコンサートで素晴らしい歌声をたっぷり聞かせていただきました。615合唱団の歌は10年くらい前、初めて聞いたとき一目惚れならぬ一耳惚れしました。清らかで温かい歌声。それらはどこから来るのか？すべて聞く人々の心の中にあるものが歌として

表現されたものだと思います。だから熱くて力強い。615合唱団は私にとって憧れでした。

続く第2部の送年会の壇上のスピーチで私はそのことを真っ先に述べました。テーブルが客席に並べられ、ごちそうがてんこ盛り、ビール、マッ

コリが用意され交流会の場に早変わりすると送年会は歌やメッセージ、様々な表現で大盛り上がり、私は615合唱団ファンクラブ日本支部長を名乗って大喝采を受けました。

歌のリクエストに「故郷の春」を歌うと大勢の人が後ろで肩を組んで応援してくださり、会場一体となって歌ってくださいました。今、思い出すと竜宮城の浦島さんに勝るとも劣らぬ歓迎ぶりでした。こんなに楽しくおもしろい、内容豊かな忘年会は初めてです。報告したいことはまだまだいっぱいありますが、次の機会に期します。

2024年6月22日、615合唱団定期演奏会にファンクラブ日本支部の旗を掲げて一緒に行きましょう！とこの場を借りてお誘いして、ひとまず筆を擱きます。

日韓の市民が希望の灯をともし

615合唱団ファンクラブ日本支部



▲615合唱団メンバーとの記念写真(上段中央が森本氏)



## 2023年の主な活動を振り返り、慰労と成果を共有する

## 2023年韓統連大阪本部送年のつどい

韓統連大阪本部2023年最後の行事として「2023年韓統連大阪本部送年のつどい」が12月17日(日)、がんこ桃谷店(大阪市天王寺区)で開かれた。

送年のつどいでは、金隆司韓統連大阪本部代表委員が乾杯挨拶を通じ「韓国では大学教授が選ぶ今年の四文字熟語に“見利忘義(利欲に目がくらんで道義を忘れる)”」が選ばれました。まさに尹錫悦政権に当てはまる四文字熟語だと思えます」と述べながら、「2023

年、韓統連大阪本部は第28回統一マダン生野をはじめ様々な取り組みを通じて成果を残しました。この成果を土台に2024年も頑張っていきたい

よう」と語った。

続いて食事を交えながら参加者間の親睦と交流が図られた後、崔誠一(チェ・ソンイル)事務局長がスライドと動画を通じて「2023年韓統連大阪本部の活動を振り返る」を行い、各種取り組みを振り返りながら、参加者全体で成果を共有するとともに、孫啓榮(ソン・ゲボム)組織部長の進行のもと朝鮮半島に関するクイズが行われ、送年のつどいの雰囲気は盛り上がった。



▲乾杯挨拶を行う金隆司代表委員

その後、参加者から2023年を振り返っての感想が述べられ、最後に金昌範(キム・チャンボム)副代表委員が閉会挨拶を行った。

## 翻訳資料

## 映画『道の上に金大中』2024年1月10日公開

金大中元大統領生誕100周年記念映画『道の上に金大中』が1月10日公開される。『道の上に金大中』は青年実業家出身の金大中元大統領が様々な苦難を経て政治家として成長する過程と、1987年大統領選挙の候補として出馬するまでのストーリーを描く。1924年、日本植民地時代に全羅南道新安の小さな島に生まれ、木浦の青年実業家として成功し、6・25戦争の死の淵を越えて政界に入り、70年代に朴正熙維新政権に反対し、交通事故と拉致の後、九死に一生を得て帰国、新軍部勢力によって5・18民主化運動を背後で操作した内乱陰謀罪とされ死刑判決を受けるなど、金大中元大統領の人生は韓国現代史と同様ドラマチックだった。

これまで大統領経験者の人生を追った映画は『道の上に金大中』と『盧武鉉です』『文在寅です』のわずか3作品。そのうち大統領自身の人生を追うだけで、韓国現代史のすべてを網羅してしまうのは『道の上に金大中』だけだ。

5度の死の淵を乗り越えた死刑囚、4度の国会議員選挙と3度の大統領選挙の落選を経験した落選の専門家である金大中元大統領の人生をスクリーンに映すべく、未公開資料と膨大な量のアーカイブ資料を集め、彼と歴史的瞬間を共にした人々の声を収録した映画だ。

2013年に金大中追慕事業会が企画して、当時金大中平和センター理事長だった李姫鎬女史の許可を受け、2019年には映画としての完成度を高めるために『ミョンフィルム』に制作を提案した。『盧武鉉です』を製作したチェ・ナギョン代表が製作に参加、『魯会燦6411』のミン・ファンギ監督が演出を担当して完成させた。

映画『道の上に金大中』は「金大中元大統領生誕100周年記念映画上映委員会」を組織して、クラウドファンディングなどで1万人の支援者を集め、12月18日から全国13都市で試写会を開催した。映画は2024年1月10日、国内と海外21都市でも英語版で同時公開される予定だ。

(SBSニュース 2023/12/13)



## 【書籍紹介】

# 「内なる壁を突き破る」 —在日コリアン女性のハラスメント事例集—

著: 在日本朝鮮人人権協会 性差別撤廃部会

800円

本書でも指摘されているように、世の中のどのような組織にも人間が集団化すると同時に、何らかの権力関係が生まれる。それは国権執行機関や公共団体が「法の名のもとに」その社会に属する私人に対して権力という優位性を保持していることにも示されている。したがって国家や地方機関が、その権力の乱用を防ぐための仕組みや教育関係などを持たずして、私人の尊厳性は本来守られない。ところが実際には権力の横暴によって、人の尊厳が棄損される事例は後を絶たない。果たして私たちの生きているこの国が、どれほど民主的なのかと胸に問うてみると寒さがつのるばかりだ。

国家にとどまらず、企業、運動団体、その他、それぞれの集団で築かれた規範や規則に基づいて役職が決められ、目的に向けた指示、命令関係が存在する。そうした組織の仕組みを否定するつもりはないが、機構の上位の者がことさら声を大きくし、他の意思を圧してしまうことは常にあり得る。集団には目的遂行に向けての緊張関係も存在するが、その関係が集団の仲間を萎縮させ、主従関係として固定化されたとき、従属させられる側の意思も、尊厳までもが委縮させられ、ないがしろにされることすらあり得るし、そこからハラスメントが起こる危険性も内包する。



ハラスメントとは「愛情に基づいたしつけ」でも「親しみの行為のつもり」でも「行き過ぎた冗談」でもない。それは明らかに権力を持った側の横暴であり、固定観念化された支配関係を悪用した差別行為である。そして、そうした不条理から社会で現実に被害を受けているのが圧倒的に女性や社会的弱者であることを、この本を読んで一層痛感する。とりわけ在日朝鮮人社会（韓国籍、朝鮮籍に拘わらず）には、家父長制時代からの因習が未だ残っている中で、女性たちがモノを言うにも一層の覚悟と自己犠牲が必要なのが現実である。

この本には被害を受けたり、生きづらさを強く自覚する在日朝鮮人女性たちの肉声とともに、セクシャルハラスメント、ジェンダーハラスメントを始め、社会で差別や暴力が生み出される背景及びそれを裏付ける資料、アンケートなどが示されている。発行元である在日本朝鮮人人権協会性差別撤廃部会は「民族や性、階級などに基づくあらゆる差別と暴力を認識し、行動することによってつながり、だれもがいきいきと生きられる社会の実現を目指す」としている。そう、いきいきと、民族の解放を、そして、それが人間の解放に直結し、実現していくように、いっそう学びを深めたい。

(範)

## ◆◆行事案内◆◆

## 韓統連セミナー2024

～韓国四月総選挙、民権勝利実現のために～

## 「韓国政治の現在地と進歩政治の展望」

日 時：2月4日(日) 午後1時30分 受付／午後2時 開会

場 所：KCC会館5階ホール 大阪市生野区中川西2-6-10

報告者：金昌範(韓・チャナム) 韓統連大阪本部副代表委員

参加費：800円(青年学生：500円)

主 催：韓統連大阪本部／問合せ：090-3822-5723 (崔)